

# たろ

TAKUSUI  
No. 659

9

September, 2011

発行 財兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌



「買って食べて応援」の企画でウギャル Lieさん(前列右端)と参加者の皆さん(淡路市 仮屋漁港にて)

## 平成23年度 水産技術センター研究発表会 開催

NEWS 「買って食べて応援」～ウギャルプロジェクトをJF仮屋で開催～  
淡路島でもサバイバル訓練 ～内海側で初めての取組み～



## 平成23年度 兵庫県水産技術センター研究発表会 開催

8月9日(火)「平成23年度兵庫県立農林水産技術総合センター水産技術センター研究発表会」が明石市二見町で開催され、関係者約110名が参加しました。この催しは、同センターがどのような研究をしているのか、兵庫県ではどのような漁業が行われているのか等を広く一般県民に紹介するもので、同センター見学会と併せて、毎年、夏休みのこの時期に行っています。

同研究発表会は、午後から行われ、「試験研究結果報告」として各研究員から5件の報告がありました。(別表参照)

併せて「漁業者活動実績発表」として、JF由良町

中央4Hクラブ 山本 剛会長から「アカガイ養殖に希望をかける」、JF神戸市女性部 井上二三枝部長から「神戸市漁協女性部が進める魚食普及」について発表されました。この2件については、来年春に東京で開催される全国青年・女性漁業者交流大会にて発表される予定です。

今回のいずれの発表も、これからの水産の技術開発に重要な研究課題で、漁業者や系統団体、行政、市民団体等、会場に詰めかけた約110名の参加者は真剣に聴き入り、発表後の質疑応答で意見が交わされていました。



魚食普及について発表する井上部長



アカガイ養殖について山本会長の発表

発表内容	研究者名
瀬戸内海の赤潮発生件数はなぜ減らないのか?	宮原 一隆(水産技術センター資源部 主任研究員)
マダコの保護効果の試算と網目選択性	五利江重昭(水産技術センター資源部 主任研究員)
日本海で漁獲が急増したサワラ~その生態に迫る~	西川 哲也(但馬水産技術センター 主任研究員)
アカガレイ幼稚魚出現海域とその環境について	大谷 徹也(但馬水産技術センター 主任研究員)
ウチムラサキの増殖技術	増田 恵一(水産技術センター増殖部 主任研究員)



発表会の様子

# 来期に向けて「農林水産施策の推進に係る政策提案会」開催される

去る8月3日(水)ひょうご女性交流館(神戸市)において、兵庫県農政環境部の幹部職員並びにJFグループ兵庫水産政策協議会等から約50名の参加のもと、県主催による「平成24年度農林水産施策の推進に係る政策提案会」が開催されました。

会議の冒頭、県農政環境部 谷口進一部長と、JFグループ兵庫水産政策協議会を代表してJF兵庫漁連 山田隆義会長が挨拶を述べられた後、JF兵庫漁連 山田隆義会長から「漁場再生の取り組み」、兵庫県JF共済推進本部 吉岡修一本部長から「但馬地区の水産業に対する総合的な振興策の推進について」、JF兵

庫漁連 山口徹夫専務より「県産魚を用いた食育の推進」の3点を重点的に提案し活発な意見が交わされました。



## —平成24年度政策提案の内容—

### 1 漁場再生の取り組み

- ① 豊かで美しい瀬戸内海を取り戻すための「新瀬戸内海再生法」の早期整備に向けた国への要請
- ② 漁場再生のための緊急措置の実施

### 2 但馬地区の水産業に対する総合的な振興策の推進について

- ① 沖合底びき網漁業者に対する直接支援策の構築について
- ② 水産業・加工業・観光業等に関連する異業種間の連携体制の構築について

### 3 県産魚を用いた食育の推進

- ① 県民に対するお魚講習会の開催並びに講師養成に対する支援
- ② 県下学校における食育の推進へのさらなる支援

- ③ 学校給食における「兵庫県産品100%の日」の全小学校での実施

### 4 その他

- ① 漁業用燃油対策に関する国への働きかけ
- ② 漁家経営安定化のための国への働きかけ並びに金融政策について協議する場の設置について
- ③ 漁場機能維持管理事業(韓国漁船投棄漁具改修事業)の継続実施
- ④ 兵庫の海域にあった新規養殖技術(種苗生産技術を含む)の開発
- ⑤ 操業・航行安全のための県条例の制定

# コープマリンスクール開催

## ～今年はJF神戸市と兵庫県水産会館で開催～

## JF兵庫漁連指導部

協同組合間提携事業として、コープこうべ・JF神戸市・JF兵庫漁連が毎年実施しているマリンスクールが、本年はJF神戸市(7月25～26日)と兵庫県水産会館(7月29～30日)において開催されました。

JF神戸市コースでは「セリ市見学」や「クイズを交えた魚についての話」、「魚のつかみ取り」、「タコの塩もみ」などを体験しました。また、神戸市立栽培漁業センターの協力のもと、ヒラメの稚魚の放流を行い、魚を増やす取り組みの大切さを学びました。

一方、今年初めての開催となる水産会館でのJF兵庫漁

連SEAT-CLUBコースでは、晴天の中で「干しタコ作り」や「アジの三枚おろし」に挑戦しました。午後から行った「チリモンmonster(チリモン)探し」では、親子が一緒になってチリモン探しに夢中の様子でした。みなさん、魚とは普段慣れ親しんでいないようで、親子一緒に目を輝かせて、とても楽しそうでした。

参加者の感想・アンケートには、干しダコづくりやつかみ取りや三枚おろし、チリモン探しが特に楽しかったという内容が多く、ほとんどの参加者が来年も是非参加したいとのことでした。



セリを見学しました(JF神戸市)

チリモン探しに夢中(水産会館)



「パパに任せろ！」  
干しダコ作りに挑戦!(水産会館)



うまく掴めるかな?(JF神戸市)





## 但馬地区の漁協青壮年部が「少年水産教室・漁業体験教室」を開催

JF兵庫漁連但馬支所

但馬地区の但馬・浜坂両漁協の青壮年部は、乗船体験等を通して地元基幹作業である漁業の魅力や重要性について知ってもらおうと、それぞれの地区の参加者を対象に様々な活動を行いました。

津居山青壮年部は8月2日に津居山漁港にて、柴山青壮年部は8月3日に柴山漁港にて、香住青壮年部は8月4日に香住東港にて、兵庫県漁業調査船「たじま」での底曳網漁業体験を行いました。また、浜坂町漁協青壮年部は8月5日に県立香住高等学校の協力を得て、香住東港にて香住高校実習船「但州丸」に乗船し底曳網漁業を体験しました。



イカ飯作りに挑戦  
(津居山)



アジ缶詰作りの様子 (浜坂町)

各地区の参加者には、小学校4～6年生とその保護者、教員をはじめ報道関係者の方々の姿もありました。漁業の町の児童達とはいえ、漁業を直接体験する機会は殆ど無く、参加者は底曳網体験で漁獲されたいろいろな魚に目を見張っていました。

また、漁協・女性部の協力で地元水産物を使った昼食を食べたり、イカの一夜干しづくりを体験したり、香住高等学校において缶詰製造作業を体験したり、タイやヒラメ稚魚放流も行うなど、各青壮年部が工夫を凝らした盛り沢山のプログラムは大好評でした。水産業に親しみを持ってもらうことや、夏休みに



サメと大きなノドグロが獲れました! (柴山)

最高の思い出が出来たのではないかと思います。各青壮年部は、この少年水産教室・漁業体験教室を通して漁業について理解を深めてもらい、後継者育成や更なる魚食普及に繋がりたいと考えています。また、今回の経験を生かし、県・学校・町・漁協・女性部・青壮年部員等と更なる連携を強め、来年以降も継続していきたいと思っています。

最後に、少年水産教室・漁業体験教室の場を提供していただき、多大なご協力を賜りました県立香住高等学校ならびに県水産技術センター、その他関係諸団体の皆様にこの場をお借りしまして、厚く御礼申し上げます。

船上選別作業に興味津々 (香住)



# 第9回JFマリンバンク全国大会

JF兵庫信漁連

JF全漁連、農林中央金庫共催の「第9回JFマリンバンク全国大会」が7月13日(水)東京・港区のザ・プリンスパークタワー東京で開かれました。大会には全国から貯蓄推進委員、優良JF女性部、JF信漁連、県JF、JF全国

女性連の関係者等約120名が出席しました。

第1部では、「浜の暮らしを守る信頼の金融へ」をテーマにJF全漁連 石川和彦信用・組織指導部長が基調報告を行いました。続いて、JF京都信漁連 山口恭子業務部長より、JF京都信漁連独自の貯金推進活動報告等について、また、JF山口・榎野孝史信用部長より安心・安全な信用事業窓口の体制強化について事例発表がされました。

第2部では、JF江井ヶ島 橋本幹也組合長、JF浜坂町 川越一男組合長を始め、全国の推進委員46人と5つのJF女性部に対する感謝状の贈呈後、大会宣言を採択しました。最後に、東京海洋大学客員准教授、お魚ライフコーディネーターや環境省 地球いきもの応援団を務める“さかなクン”を交えた座談会が行われました。



## JF津名に“釣り堀” OPEN!

JF津名は、佐野運動公園の岸壁の一面に、高級魚が釣り放題の海上釣り堀「シーパーク佐野」をオープンし、開園当日の8月10日(水)には大勢の太公望で賑わいました。

オープンに先立ち、開所式が7月31日(日)、淡路市 門康彦市長やJF津名 中田勝組合長ら関係者が出席して行われました。同釣り堀はJF津名が民間企業とタイアップして事業を行い、従業員にも地元の方を採用し、将来は直売店を出店していく構想でもあり、JF津名 中田組合長は「淡路島の観光振興と地域活性化に繋がれば」と期待をされていました。

施設は24m×24mのイカダ4つを備え、近年の海上釣り堀で人気のある“タイ”、“シマアジ”、“ヒラメ”、“ヒラマサ”等が各コース(時間で分かれる)で釣り放題。大型魚コースでは、万一ボウズの人にもマダイ1尾プレゼントもあるようです。



これからの行楽シーズンに一度、立ち寄ってみてはいかがでしょうか。

公式ホームページ: <http://www.seapark-sano.jp>をご覧ください。

## 明石タコつぼオーナー制度のご報告 ~おかげさまで無事終了いたしました!~

JF兵庫漁連広報部

本年度の「明石タコつぼオーナー制度」は8月1日(月)から4回の引上げが行われました。タコつぼに3回もタコが入っていたオーナーもいれば、残念ながら1回も入らなかったオーナーもおられました。

結果は下記の表のとおりです。

来年も多くの“タコつぼオーナー”が誕生し、タコが豊漁であることを願っています。

日付	天気	漁獲数 (タコつぼ212個中)	最大	最小	平均	漁獲率 (漁獲数÷212つぼ)
8月1日(月)	晴れ	30匹	980g	350g	501g	14.1%
8月6日(土)	晴れ	37匹	730g	300g	470g	17.5%
8月9日(火)	晴れ	41匹	690g	300g	442g	19.3%
8月12日(金)	晴れ	33匹	660g	330g	472g	15.6%

※300g以下のタコは放流しました。



## 「買って食べて応援」

～ウギャルが「明石ダコ」を使った新商品PR～ (財)兵庫県水産振興基金



出港前のLieさん達  
(左からJF仮屋青年部 戎部長、  
Lieさん、釜石市漁師 佐々木さん)

“ウギャル”として各地で水産物や水産のPRを行っているLie(ライ)さんが「明石ダコ」新商品プロジェクトとして、タコ漁の体験や、新商品のPRを8月6日(土)淡路市仮屋漁港にて行いました。

このPRイベントはNPO法人「淡路島活性化推進委員会」が主体となり、JF仮屋(岡田光司組合長)と同組合青年部(戎 直人部長)が協力しました。また、Lieさんと繋がりがあり、東日本大震災で被災した「かまいし水産振興企業組合」のカキ養殖漁師 佐々木健一さんと地元“淡路ギャル”の2人も参加し、記念撮影後、元気に出港し約2時間の漁業体験後、新商品開発会議とバーベキューが行われ、参加者は懇親を深めていました。

Lieさんはバーベキューに提供されたタコを食べて「タコは好きですよ。ここのタコはエビ・カニをたくさん食べているからか、弾力・歯応え・旨味が他と違い美味しい。低カロリーで栄養豊富だから若い女性におすすめ。」とPRされ、また、佐々木健一さんは「阪神・淡路大震災からこのように復興した姿を見て、また、JF仮屋



底曳網漁業を体験

の皆さんとの交流で元気づけられた。JF仮屋は若い漁業者も多く、サラリーマンを辞めて漁師になった人もいと聞く。組合としてもまとまった印象を受け、後継者を育てるという面で、今後の見習うべきところだと思う。さらに「地元に戻ると現実をつき付けられるが、“地物”、“名産”といわれるものを残すためにも漁師を続けたい。そのためにも次のステップにつなげていけたら」と話してくれました。

なお、ウギャルプロデュースの新商品として「タコ飯」、「タコトマトソース」、「タコすり身つつみ」等8種類を、9月からWEB、全国量販店から発売する予定です。

なお、この商品は「買って食べて応援」と題し、東日本大震災への募金付き加工品として売上金の一部が義捐金として寄付されます。



商品を持ってPRしてくれました



バーベキューは盛り上がっていました!

「栄養豊富で低カロリー」、「食べて体の中からキレイになる」という若い女性に向けた、新しい魚食普及のスタイルを進めるウギャル“Lie”さんの今後の活躍に注目です。

## 「ウギャルプロジェクト」とは

魚(ウオ)と海(ウミ)の頭文字「ウ」をとって、「ウギャル」とした造語。

若者の魚離れが問題となっている中、海の幸の食や漁業に興味を持ってもらおうと、様々なイベント、雑誌、ブログを通じ、食のあり方や漁業の実態、魚食の大切さを、若者だから出来る感性を生かして伝えていくというプロジェクトでお姉系ギャルのカリスマモデルとして人気の高い“Lieさん”が中心となって活動中です。

ヒヤリ!! 悪夢がよみがえる

# コンテナ船明石海峡橋脚下で乗り上げ事故

## 改めて船責法制限額を超える漁業被害救済制度の創設を訴える

明石海峡特定航路内でまたコンテナ船事故が発生した。事故は、去る8月19日午前4時40分頃下関から大阪港に向かっていたオランダ船籍コンテナ船「FLEVODIJK号」(9,983GT)が進路を誤り、明石海峡大橋の舞子側アンカーレイジ岸壁に乗り上げ座礁した。燃料油の流出はなかったものの、かつて船主責任制限法の発動で漁業者が泣かされたことが思い出される。平成20年3月5日、この海峡航路東口で貨物船3隻が衝突し、うち1隻が沈没。流出した燃料油でノリ養殖場などに甚大な被害があり、そして、この事故で船主責任制限法により漁業損害賠償が大きく制限され、漁業者は二重の苦しみを味わったことは記憶に新しい。

この事故を契機に本県漁連は、明石海峡、来島海峡など狭隘な水域は航行船舶の輻輳はもとより、優良漁場という

側面から漁業操業と航行船舶の競合も著しく、これをふまえて(一)海上交通安全の確保と(二)船主責任制限法に基づく船主責任制限額を超えた漁業損害を補填するための漁業救済基金の創設を全漁連に提言してきました。また、他府県漁連との連絡会議等の場でも兵庫のような悲劇を再発させてはならないと明石海峡事故を事例に運動してきたところです。今回のF号事故は操船ミスから発生したとのことですが、大型船事故は漁業者にとって常に脅威であり、改めて、航行船舶の海上交通安全確保の徹底と理不尽な油濁被害に泣く漁業者を救済する基金制度の創設を強く訴えるものです。



## 7つのテーマについて研修

### ～平成23年のり養殖技術研修会～

JF兵庫漁連 のり海藻事業本部

8月31日(水)明石市の兵庫県立水産技術センターにて平成23年度のり養殖技術研修会が開催されました。この



宮城県の被災状況を語る藤井代表



皆さん熱心に聴講されていました

研修会はノリ養殖の持続的発展のため必要な知識習得を行い、ノリ養殖業の経営安定に資する目的で毎年この時期に行われており、今年はノリ生産者・関係者ら約140名が参加し

ました。

研修の内容は7課題あり(別表参照)、それぞれに発表後、質疑応答が行われました。海苔産業情報センター 藤井弘治代表による「大震災による海苔流通の影響について」では、宮城県のノリ生産の大打撃が流通に与える影響や、輸入ノリの数量拡大の懸念のほか、今年度の全国のノリ流通の予測、兵庫県共販価格の変化の動向等にも言及され、「国産ノリで市場の需要に応える体制が必要であり、また、販路拡大のため生産者サイドからの消費者PRを行ってはどうか」と締めくくられました。他にも漁場環境、アオノリなどノリとの複合養殖等について発表がなされ、参加者は熱心に聞き入っていました。

題 目	講 師・発 表 者
漁場環境の変遷とこれからの課題	県水産技術センター 反田所長
漁場環境再生の取組み ～下水道管理運転とため池の「かいぼり」について～	JF兵庫漁連 のり研究所 中谷統括代理
平成6年当時の酸処理試験結果と今年度について	(株)扶桑コーポレーション 第一製網(株) 杉浦部長 JF兵庫漁連 のり研究所 井上主任 川崎所長代理
大震災における海苔流通の影響について	海苔産業情報センター 藤井代表
アオノリ養殖について	JF兵庫漁連 のり研究所 竹迫主任
アサリ・ワカメの複合養殖について	JF兵庫漁連 のり研究所 箕浦統括代理
ノリ養殖管理のための速報と予報	(社)日本水産資源保護協会



## 兵庫県・西オーストラリア州姉妹提携30周年記念 草の根交流に兵庫県民交流団が訪豪

兵庫県と西オーストラリア州は1981年に姉妹提携調印を行って以来、貿易、経済活動の相互補完や教育文化事業など交流活動を続けてきており、今年30周年を迎えました。

この節目を記念して、草の根交流の輪を広げ日豪両国の相互理解を深めようと、兵庫県国際交流協会（齋藤富雄理事長）が兵庫県民交流団を派遣を行い、水産団体からも3名が参加し、記念行事などに出席しました。



姉妹提携30周年記念式典会場で

県民交流団一行17名は7月30日から8月7日まで9日間の旅程で、国際都市シドニー及び西オーストラリア州パースを訪れ、歴史文化遺産や官営ハーバー、ワイナリーなど大規模施設の視察見学と、同国民と草の根交流を行いました。

シドニーではオペラハウスや世界遺産ブルーマウンテンなど見学し、知見を高めました。



生鮮魚や寿司なども良く売っていた



ヒラリーボートハーバーは市民憩いの場

西オーストラリア州都パースでは、水産代表3名は他のメンバーと別れ、これからの漁業漁村の新しいスタイルを模索するためHillarys Boat Harbourを訪問しました。この港は1986年に州政府が建設したリゾートハーバーで収容隻数500隻。100m埠頭を有し300T級まで係留可能。1986年同市で開催されたアメリカズカップ世界大会を機に国内でマリネジャー熱が高まり、今では4人に1人がマイボートを持っている国である。車に金をかけるより先ず船を購入するのがライフスタイル。だから中古車市場はボートを牽引するための4駆車が人気の的という。

ただ、船の所有者には年金生活者も多らしく、施設の会員登録料95千円/隻～、年間係留料10万円/隻～、係留船は100万\$以上の保険加入が義務づけられているなど、高額な管理費用が必要というが、どう遣り繰りしているのか？疑問がありましたが、質問は遠慮しました。

5日、県民交流団は兵庫県・西オーストラリア州姉妹提携30周年記念式典に臨み、井戸知事とバーネット首相の共同声明調印の立ち会い、記念レセプションに参加し現地関係者と交歓交流しました。また、水産関係以外の方はこの前日、パースから300km南のマーガレットリバー近くの農場でファームステイし、農業体験を通じて現地の皆さんと草の根交流をしました。一行は6日パースを立ち、シンガポール経由で7日午前関空着で全員元気に帰国しました。



“30周年は次代へのスタート  
さらに友好の絆を…”

共同声明で井戸知事



オーストラリア連邦は広大な国土に人口は僅か約21百万人。今回訪問した西オーストラリア州は国土約253万km<sup>2</sup>で日本の約7倍、人口は約2百万人で日本の約1/65。位置的にはオーストラリア大陸の西部でインド洋に面し、地中海性の温暖な気候風土に恵まれ、自然豊かな国土に育まれた農林水産物や豊富な鉱物資源は世界経済に貢献しています。我が国も鉄鉱石の60%を輸入している他、LNGや穀物類、牛肉等様々な物資を輸入しています。

兵庫県と西オーストラリア州の交流の歴史も鉄鉱石の貿易から始まっており、LNGなど本県産業の振興に深く繋がっています。

今般、両県州は姉妹提携30周年を迎え、井戸知事とバーネット同州首相が共同声明に調印し、一層の交流



バーネット首相と

促進を確認しました。

調印式で井戸知事は、東日本大震災に際し同州から多大の支援・義援金を頂いたことに謝意を述べ「鉄鉱石やLNGの輸入で私達はその恩恵に浴している。西豪州の協力で日本経済が活性化することが東北地方の復興支援につながる。」と挨拶。バーネット首相は「友好



パース市長と



延々と続く自然石護岸

の印にカンガルーを贈る。神戸マラソンには有力選手を参加させたい。」とエールの交換。又、井戸知事は首相に感謝の意を表し「日豪の 架け橋ならん 両県州 未来の世界 我らが築かん」と一句を披露された。

### 護岸は総て自然石

オーストラリアは自然環境保全・保護へ意識の高い国。空港等は外来動植物の水際防除に厳しい。自然豊かな動物園は来場者の手の消毒は勿論、蠅の発生期でも駆除剤散布はしないお国柄。

海域では生態系に配慮して防潮堤や港護岸は総て自然石の傾斜護岸が延々と続く。また、きれいなビーチで珍しい看板を見た。「ビーチ内で犬の立ち入り厳禁」とあり、理由は犬の体臭を嗅ぎ取り鯨が浅瀬に来て危険とのこと。



モーテルで不安な一夜を過ごす3人



キングスパークからスワン川を望む

### “世界一美しい国”と賞賛

州都パースには西豪州人口の約71% (約140万人) が居住しており、邦人永住者は1,700人。このパースは旅行家・兼高かおる氏が「世界一美しい国」と賞賛し、国連の世界で一番住みたい国調査でも上位5位に入っており、移住希望で人気急上昇中だそうです。(文：戸田)

## 各地の活動内容が報告

～平成23年度豊かな海創生支援協議会 活動事例報告会にて～

豊かな海創生支援協議会

8月12日（金）兵庫県水産会館にて平成23年度豊かな海創生支援協議会の通常総会ならびに活動事例報告会が開催され、JF・系統・行政など関係者約30名が集まりました。同協議会は藻場・干潟等の修復再生など、漁業者や地域住民が行う環境・生態系保全活動について国・地方自治体が交付金で支援するための県域活動組織です。12日の午前中には通常総会が行われ、H22の事業報告・決算、H23の事業計画等が審議され承認されました。午後からはH22年度活動事例報告として各担当者が取り組み事例等について報告をしました。報告の内容は海底耕耘によるものが多くを占め、県下各地で海底耕耘が盛んに行われていることが窺わ



活発な意見交換がなされました

れました。そして、良好な底質環境の目安となる“ナメクジウオ”の個体数の増加が報告される等、その効果は現れつつあるようでした。また、漁業者から「砂の粒が小さくなった。」などの報告もあり、最後に行われた意見交換では「海底耕耘が有効な手段として認められるためには、実感出来ている現状の裏付けとなる資料・データが必要であり、これを使ったアピールが今後必要ではないか。」といった意見が出され、有意義な報告会となりました。



報告会の様子

## オフィスなかがわ・中川代表が熱弁

～但馬地区で漁協役職員研修会開催～

但馬地区漁協協議会

但馬地区漁業協議会による平成23年度但馬地区漁協役職員研修会が、去る8月29日（月）但馬漁業協同組合で開催され、役職員66名の参加がありました。この研修会は、JFの運営を円滑に行うため、「いかに人を活かして育てながら組織を活性化させるか」という管理監督者のリーダーとしての意識改革と資質の向上を目的として行われました。吉岡会長の主催者挨拶のあと研修に入り、講師にオフィスなかがわ代表中川政雄氏を招き、「こんなリーダーが組織をのばす」をテーマに講演して頂きました。ご自身の体験談を基にした身振り手振りの迫

力ある口調に役職員一同終始聞き入り、川越副会長の閉会挨拶のもと大盛況で終了しました。





# 「仕事の進め方」について研修

～JF兵庫漁連が職員研修会を開催～

JF兵庫漁連総務部

平成22年度第1回兵庫県漁連職員教育研修会が、職員109名の参加の下、8月19日（金）は水産会館、26日（金）はサンピア明石で2日に分けて開催されました。今回の研修会は、6月に研修体系を見直してから最初に実施されることもあり、糸藤正士氏（日本報連相センター創設者）を講師に迎え、「仕事のすすめ方～報連相の実践」と題してグループ研修を主とした基礎的な内容で行われました。

はじめに突々参事より今回の研修の目的について、「職員が日々の業務の手をとめてまで実施する意味をよく考えてもらいたい。

研修は職員全員に共通することであり、基本的な知識を身につけて個々のレベルアップをはかり、学んだことを部署に戻って実践してもらいたい。」と説明があ



19日の研修の様子（兵庫水産会館）



26日の研修の様子（サンピア明石）

りました。

研修では、挨拶・情報・意味の共有化、目的思考など、報・連・相（報告・連絡・相談）を通じて質の高い仕事のすすめ方を学ぶことができました。研修をうけた職員からは、「挨拶の大切さが分かった」「報連相について分かっている気になっていた」「情報の共有化の重要性を理解した」「手段を先に考えていたので目的を明確にしたい」「職場で実践していきたい」等、非常に前向きな感想が多くあり、意識向上につながる有意義な研修となりました。

## 淡路島でもサバイバル訓練

～内海側で初めての取組み～

（財）兵庫県水産振興基金

実際に救命胴衣を着用し、その効果について確認する「サバイバル訓練」が、8月20日（土）洲本市生石浜で行われました。系統5団体が推進する「命を守る運動」の一環で、淡路地区漁青連（中村高治会長）が主体となり神戸運輸監理部、神戸海上保安部の協力を得て開催されました。但馬地区では何度か行われていますが、内海側では初めてということで漁業者・関係者合わせて約50名が集まりました。

まずは、会場近くの会議室で、神戸運輸監理部 筒井 宣利課長から「海中転落防止と救命胴衣着用の必要性」について講義が行われました。筒井課長は救命胴衣着用の必要性を強調、そして、海中転落時の注意点として「平常心を保つこと」、「生き抜くという強い意志を持つ」等に加え、

低体温症（ハイポサーミア）の解説がありました。続いて、神戸海上保安部 榎野 毅専門官からは海難事故防止の心構えに加えて、淡路島では南海・東南海地震で津波の被害が想定されることから、東日本大震



いつもお世話になっている筒井課長の講義

災時に東北地方の海上保安部が撮影した映像を参考として公開されました。

訓練では、まず、同保安部 今井専門官が救命胴衣を着けずに飛び込み、榎野専門官から注意点が確認されました。続いて、

漁業者5名が数種類の救命胴衣をそれぞれ着用し、順番に飛び込みました。救命胴衣の種類ごとに特性や浮き方の解説があり、参加者は実際に着用した人が浮いている姿を見て大変参考になり、その効果を実感出来たようです。

JF兵庫漁連では、同じ講習会を9月に播磨地区で開催を予定しており、出来るだけ開催の機会を持ちたいとしています。



飛び込んだ後、報道陣の取材を受けるJF仮屋 相田欽司さん



救命胴衣の性能を体感

## 豊かな海づくりに向けて

～JF明石浦が環境保全勉強会を開催～

(財)兵庫県水産振興基金

JF明石浦(戎本裕明組合長)は、8月10日(水)明石市内の「当津会館」において、外部から講師を招き、環境保全ならびに漁場改善・魚食普及に係る勉強会を開催し、組合員、JF職員、行政担当者ら約100名が集まりました。

漁師それぞれが問題意識を持ち、アイデアを出さすきっかけにしようと、同JFで初めて開催されました。講師には、徳島大学大学院・近畿大学の中西 敬講師が「豊かな海づくりに向けて」と題し、兵庫県水産技術センター山下正晶専門技術員が「資源管理と販売対策」と題しそれぞれ講演を行いました。

中西講師は講義の中で、大阪湾の海水の栄養状況から湾内の潮流

の影響の話を分かりやすく解説した他、コンクリートにアミノ酸を混ぜる取り組みなど、現在進められている最新の事例紹介もされました。

山下専門技術員は「明石の魚」の価格などのデータを交え、ブランド化やPR戦略について説明があり、参加者は熱心に聞き入っていました。最後に意見交換会が持たれ、参加者からは「市民への認知度はまだ低いのではないか」、「高級というイメージが先行し、消費者は敬遠するのでは」といった意見が出されました。

今回の勉強会を終えて戎本組合長は「これを契機に今後も機会を見つけて継続していきたい」と話されました。



挨拶に立つ戎本組合長



中西講師の講演

## 「里」と「海」の協働推進フォーラム 開催

～豊かな自然環境作りへ、農業者と漁業者が協働～

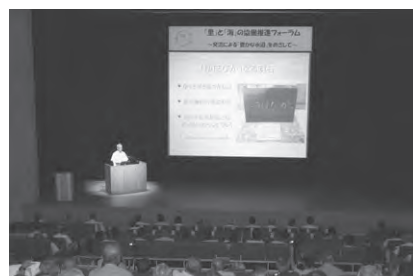
(財)兵庫県水産振興基金



メダカのコタロー劇団による講演



森副組合長の発表



鷺尾理事長の講演

農業者と漁業者との連携・協働によるため池の「かいぼり」を活用し、「豊かな海の再生」に取り組んでいく活動について考える、「里」と「海」の協働推進フォーラムが、8月28日(日)に明石市で行われ、関係者、市民ら約350人が参加しました。

フォーラムはまず、メダカのコタロー劇団による環境アニメ紙芝居が公演された後、明石市立高岡東小学校と谷八木小学校の児童らがそれぞれ環境学習で学んだ成果についての活動報告を行いました。

続く基調講演は、「水辺から育む地域の風土」と題し、水産大学校 鷺尾圭司理事長が行い、現在の瀬戸内海の状態を解説、さらに「きれいになって痩せた海を豊かな海へ変えていく」取り組みの事例等も紹介されました。また、事例報告では明石地区に加えて、淡路市で行われている事例の紹介として、浦川地域ため池・里海交

流保全協議会書記で、JF森 森 正安副組合長が発表されました。

最後に行われたパネルディスカッションではこの取り組みの関係者が意見を交わし、明石市漁業組合連合会 山本章等会長(JF西二見組合長)も参加しました。この中で「“かいぼり”は農業・漁業関係者の高齢化が進んではいるが、行政に頼らず地域住民が守っていけないと続かない。」「ここまでの活動できっかけ作りは出来たので、あとはどのように展開していくかが問題。」との発言があり、参加者は熱心に耳を傾けていました。



パネルディスカッションの様子



## 「JA兵庫・TAC推奨品の店」 をオープン

～TACを中心とした担い手支援の拠点に～

JA全農兵庫は、7月21日、兵庫県内JAが、TAC（地域農業の担い手に出向くJA担当者）を中心に、県産の特長的な農産物の販売と産地づくりの取り組みを紹介し、消費者から評価や意見・要望を確認することを目的とした、「JA兵庫・TAC推奨品の店」を、神戸市の「長田中央いちば」内にオープンした（7月14日にはイベントを開催）。県域での「TACの店」は全国に先駆けたもの。今後、毎月1回（第4木曜日）に開催。8月25日には「夏の味覚」、9月22日には「米」、10月27日には「秋の訪れ」などをテーマに、できる限り季節感のある食材を出店していく予定。

### 【来店者の声（7/21開催のアンケート結果より）】

- ・月1回?もっと来て欲しい。
- ・消費者に、どんどん情報提供してください。
- ・JAの活動をもっと消費者にPRして欲しい。
- ・地産地消を重視しているので、兵庫のものを買います。頑張ってください。
- ・新鮮なものを提供してください。
- ・JAの商品は安心して買える。
- ・本当に安心できる商品を販売して下さると信じています。



大勢の来店者ににぎわうTACの店

<http://ja-grp-hyogo.ja-hyoinf.jp/>

## ピースアクション2011 被爆ピアノ平和コンサートを開催

兵庫県生協連合会では、毎年、県内の地域・医療・共済などのいろいろな分野の生協と一緒に、平和の大切さ、尊さをみんなで考え、確かめ合う場として「ピースアクション」の取り組みを行っています。今年は、昨年に引き続いて「被爆ピアノ平和コンサート」を、8月10日（水）に神戸市立東灘区民センター「うはらホール」にて開催し、454名の参加がありました。

今回使用した「ミサコの被爆ピアノ」は、広島で爆心地から1.8kmの民家で被爆し、爆風を受け無数のガラス片がピアノの表面に突き刺さりました。傷ついたピアノは、その後、被爆所有者のミサコさんより、ピアノ調律師の矢川光則さんに託され、現在は平和の大切さを伝えるために全国各地でコンサートを開いています。

コンサートでは最初に矢川さんより、ご自身の活動や被爆ピアノとの出会いについてお話をいただき、続いて、ピアニストの吉川絢子さん、ソプラノ歌手の中川詩歩さんによる、「ミサコの被爆ピアノ物語」の朗読や「月光」、「ノクターン20番遺作」、「アヴェマリア」、「アオギリの歌」などの演奏がありました。また、コープこうべから組合員によるハンドベル演奏、「さいごのトマト」の朗読、そして、被爆ピアノ演奏の一般公募に応募された4名の方の演奏もありました。

最後に、会場全員で「ふるさと」を合唱し、鳴り止まない拍手に「上を向いて歩こう」が、アンコール曲として演奏され終演となりました。被爆ピアノの美しい音色に改めて「平和の尊さ」について気付かされた、心に残るコンサートとなりました。



参加者の皆様に、被爆ピアノを  
間近で見ていただくことができました。

<http://www.coop-hyogo-union.or.jp/>

# 旬に想う

写真と文  
遊方子

## 外来生物のはなし

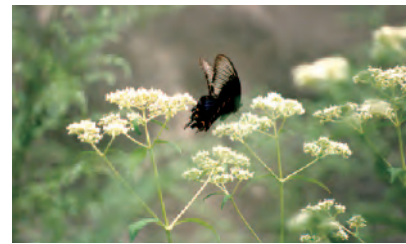
◆外来生物とは、元々いなかった国や地域へ人の手で導入された生き物である。ペットにするためや園芸用に導入した生物が主だが、人が意図せず導入されたものもあり、日本に定着した外来生物は2千2百種以上になるといわれる。これらは日本の在来種を脅かし、生態系に大きな影響を及ぼすため、時には社会問題となる。例えば琵琶湖のオオクチバス。或る実業家が原産地の北米から芦ノ湖へ導入、70年代に意図的に各地へ放流され全国に広まり、バス釣りブームに乗って少年釣り師も関与した。繁殖力旺盛で小型の淡水魚を捕食する、その侵略性が問題なのである。餌として放流したブルーギルも侵略の後押しをしているらしい。

◆日本に生息するザリガニは3種類。在来のニホンザリガニと外来のアメリカザリガニ・ウチダザリガニである。後の2種の内アメリカザリガニは食用蛙のエサとして昭和2年5月に持ち込み、鎌倉で飼育された。食用蛙もザリガニも其処から逸出し、全国へと生息圏を拡げた訳である。淡水にしか棲めないザリガニだから、移植には人の手が拘わった結果なのである。子供にとってザ

リガニは遊び友達だ。夏には池や川縁で釣り上げる姿を見かけるが、水槽で飼っても直ぐに死んでしまう。昭和天皇はメキシコ産ザリガニを飼育され、生物学の御研究所では繁殖にも成功したというが、継代的な繁殖は無かったとか…。

◆我が菜園近くの池にヌートリアが住み着いた。堤防に穴を開けるため困って、管理人らが大きなネズミ捕りを仕掛けて、見事に失敗。専門の捕獲業者に捕らえて貰い、穴だらけの池は莫大な資金投入により補修工事をした。アライグマも随分と増え、捕獲しても繁殖力に追いつかず、兵庫での農業被害は全国でも最悪となっている。菜園で胡瓜やトマトを随分と食われた。外来動物は天敵がいらないから旺盛に殖える。外来植物も同様で、繁殖力にはお手上げとなる。

◆ランタナはアジサイを小型にした美しい花で、黄色からオレンジ色、赤色と変化し、和名をシチヘンゲという。原産地の南米を出て熱帯の国々で栽培されたが、タイやインドで野生化、除去困難な外来植物になっている。日本でも沖縄県で既に帰化を確認。本州への上陸も果たし、冬越し可能なため栽培もされているが、帰化植物として問題化も近い気がする。野生化は天敵不在が大きな要因で、日本からアメリカへ渡ったクズ(マメ科)は、当初は高品質の家畜飼料として奨励作物だったが、今や強害雑草として駆除対象になっている。



鶯花とカラスアゲハ

# 大輪田塾だより

## 平成23年度大輪田塾修了論文発表会開催

8月23日(火) 兵庫県水産会館にて平成23年度大輪田塾修了論文発表会が開催され、山田隆義 塾長をはじめ、運営委員や県・漁協系統役員ら約50名が出席したなか、大輪田塾5期生5名は、それぞれ任意の研究項目で作成した修了論文を発表しました。

論文発表者は緊張の中、それぞれのテーマについて研究成果を述べ、その後活発な質疑応答が行われました。

また、全員の発表後行われた講評では、運営委員の反田實県水産技術センター所長から「さまざまな課題に取り組みされた皆さんの発表内容は大変優秀なものであった。これからもこの成果を糧に更なる発展と活躍を期待する。」との講評があり、全員の修了論文の単位が認定されました。

発表者、指導員の皆さん、お疲れ様でした。



発表会の様子

### 【修了論文認定審査員】

山田隆義塾長(JF兵庫漁連)・藤澤崇夫運営委員(県水産課)・反田 實運営委員(県水技センター)・  
突々 淳運営委員(JF兵庫漁連)・戸田氏懿運営委員(兵庫県水産振興基金)

これからの漁協青壮年部活動について JF 坊勢：大角生馬 指導員：山下正晶(県水産技術センター)	「浜ほたる」生鮮出荷への挑戦 ～ホテルイカの単価向上を目指して～ JF 坂町：熊本直和 指導員：佐藤政男(県但馬水産事務所)
漁業活性化に向けた第一歩 ～集荷・地産地消の2つの取組みからのアプローチ～ JF 姫路市：福井佐敏 指導員：峰 浩司(県姫路農林水産振興事務所)	漁協と系統に求められる人材 JF 兵庫漁連：渡部恭広 指導員：大石賢哉(県水産課組合指導係)
播磨灘の漁場環境について JF 一宮町：富山和彦 指導員：岡辺真一(県洲本農林水産振興事務所)	

## 表紙の言葉



### 買って食べて応援(ウギャルプロジェクトをJF仮屋で開催)

ウギャルのLieさんと釜石市の漁師 佐々木さん、淡路島ギャルのお二人、JF仮屋の青年部の皆さんとNPO法人の森さんが力強くこぶしを上げた写真。みんなで「頑張ろう！」の掛け声の後、船に乗り込みました。

各方面で魚食普及に関する活動を行っておられるLieさんは、他のモデルの人たちにも「ウギャル」の活動を勧めるとか。モデルという職業から「魚食」を若い女性を中心にさらに広めたいとする想いや、自ら「ウギャル」にかける想いもインタビューの合間に話して頂きました。「浜」の雰囲気が好き」と語るLieさんの今後の活躍に期待したいですね。